シリーズ「国土教育」

生活に欠かせない地図と国土地理院

学校教育の「地理」の学習単元には、必ず地図学習が含まれています。これは日本だけでなく、アメリカ、イギリス、フランスの地理教科書も同じです。最近はグローバル・ポジショニング・システム（GPS）や地理情報システム（GIS）が教科書に出てくることも珍しくありません。そのシステムは国土地理院にあります。

道路地図、住宅地図、都市計画図、鉄道路線図、バス路線図、観光案内図、天気予報図、植生図、ハザードマップ、グーグルマップなど、私たちは沢山の地図に囲まれて暮らしています。地図は私たちの生活に欠かせないものです。

国土地理院は、国土交通省に設置された測量行政を行う機関で、日本国内の基本図である「地形図」の発行元です。茨城県つくば市の敷地内には、地図や測量の役割を誰もが楽しみながら体感できる施設「地図と測量の科学館」（入館無料）が併設されており、地図や測量に関する歴史、原理や仕組み、新しい技術などが総合的に展示されています。

科学館屋外の「地球ひろば」には、高さ約2メートル、直径約22メートルの「日本列島球体模型」があり、陶板に焼き付けられた20万分の1地勢図が球体の表面を覆っています。この模型の上に立って見下ろす日本列島は、高度約300キロメートルの人工衛星から見下ろした地表に相当するもので、東アジア地域におけるわが国の過去・現在・未来について、いろいろな気付きを与えてくれます。

科学館屋外の「地球ひろば」

古代の日本は、朝鮮半島や中国から、水田稲作、土木技術（ため池造成など）、漢字、仏教などの進んだ文化を取り入れてきました。朝鮮半島や中国から日本を見ると、海の向こう側に島国があり、そこまでの距離感はこの球体模型上からの目線で見えたのだと思います。古代の日本では、日本海側が外国とつながる玄関口でした。

日本海は日本とユーラシア大陸に囲まれた大きな湖のように見えます。日本海側の都市は現在、東アジアの都市と姉妹都市提携を結んでおり、ロシアや韓国の都市と定期航路や定期便の飛行機で結ばれています。

一方、ロシアのウラジオストク港、韓国の釜山港や仁川港、中国の大連港・天津港・青島港・上海港・寧波港などの重要な港から、東南アジアや北アメリカに向けて太平洋に出るには、必ず日本付近の海峡を通過しなければならないことが分かります。

屋内の展示室1階には「日本列島空中散歩マップ」と呼ばれる巨大な日本地図があり、専用の赤青メガネ（3D眼鏡）で見ると、日本列島とその周辺海域の起伏が立体的に見えます。1メートルの高さから見た日本列島の眺めは迫力満点で、地球の上空100キロメートルを空中散歩しているように見えますが、険しい山脈や狭い平野だけでなく、水面下の海溝やトラフの起伏まで三次元体感できるのが特徴です。

この地図を見ると、日本列島（東日本）がいかに深い海溝の近くに位置し、その海溝にいまにも飲み込まれそうな状況にあるか、南海トラフで地震が発生したらいかに短時間で大津波が到着してしまうかが、自分の目で確認できます。日本の国土がいかに脆弱かが体感できるのです。

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」で伊勢谷友介が演じる明治維新の精神的指導者・吉田松陰は、20歳からの数年間、遊学のため全国ほとんどの地域を踏破し「地を離れて人なく、人を離れて事なし。故に人事を論ぜんと欲せば、先ず地理を観よ」という言葉を遺しています。「地図と測量の科学館」にいると、時代や社会を読み解く鍵は、国土や地理にあると再認識させられます。これは地図帳やパソコン画面で見るだけでは分からない感覚です。

校外学習、修学旅行・遠足等の際に、国土地理院の「地図と測量の科学館」を利用されることをお勧めします。6月28日まで、企画展「戦災からの復興～地図や写真でたどる復興の道のりと国土の変貌～」も開催されています。（国土学アナリスト　森田康夫）

地図と測量の科学館で体感する「国土のかたち」

道の駅　点描

京都大学工学研究科社会基盤工学専攻准教授
高橋良和

道路が趣味の対象になると考えたことがありますか？　最近は本屋でも旅行や文化コーナーで道路趣味に関する書籍が並べられるようになりました．道路は交通という機能を提供する最も身近な土木施設ですが、道路好きに道の何が面白いか尋ねてみると、国道の全線走破や起終点訪問、酷道・旧道・廃道探索、珍しい道路標識収集、橋やトンネル、ジャンクションといった道路構造物など、次々にその魅力を教えてくれます。もちろん道の駅訪問も道路趣味の一つです。

数年前から「どぼくカフェ」という企画を全国で始めています。身の回りにある土木的なるものの「面白さ」を共有し、無意識に過ごしていた社会の魅力に気づく機会として、最近では中学生から主婦まで参加していただけるようになりました。「どぼくカフェ」では毎年、道をテーマとした企画を開催しており「道ちゃん大集合！」と題した回には、全国から多くの道好きが集い、文化としての道の魅力に酔いしれました。

国道標識が写った風景をカードにし、道に関わる情報を記載した「道カード」を提案、現在数百もの情報が集まっています。「道カード」を道の駅で配布してみませんか？

道の駅」は既に全国1000地点を超え、個々の魅力を切磋琢磨して高めていますが，道カードを集めるために道の駅巡りをしてもらい、道カードにある風景を訪ねていただくことは、複数の道の駅を連携させた地域全体の魅力紹介にもお役に立てると思うのです。